

**2008年度(2009年3月期)
第3四半期(4~12月)
決算説明会**



2009年1月29日
大正製薬株式会社
副社長 大平 明



2008年度第3四半期決算：概要

第3四半期(累計)：損益の概要

(億円)

	07年度 3Q	08年度 3Q	対前年同期増減	
売上高	1,935	1,998	+63	+3%
SMG*	1,185	1,274	+89	+8%
医薬事業	750	724	▲26	▲3%
営業利益	329	325	▲4	▲1%
経常利益	374	341	▲32	▲9%
四半期純利益	231	47	▲184	▲80%

注：数字は億円未満四捨五入

* SMG：セルフメディケーション事業



2008年度第3四半期：売上高・利益の増減要因

(期初からの9ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+63億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+89億円)</p> <p>OTC薬等 +41億円(大正) ビオフェルミン +43億円 特保等 +3億円 その他 +3億円</p>	<p>医薬事業(▲26億円)</p> <p>大正富山医薬品 ▲13億円 ビオフェルミン +24億円 ロイヤルティ ▲23億円 その他 ▲14億円</p>
<p>営業利益 (▲4億円)</p>	<p>売上総利益 45億円増 (原価率 33.4%→33.3%)</p> <p><販管費 49億円増> (ビオフェルミン分31億円を含む)</p> <p>研究開発費 +27億円 (ビオフェルミン2億円)</p> <p>広告宣伝費 +25億円 (ビオフェルミン20億円)</p> <p>販促費 ▲7億円 (ビオフェルミン2億円)</p> <p>人件費 +6億円 (ビオフェルミン4億円)</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は前年同期の1億円の利益から32億円の損失に 特別損益: 関係会社株式売却益と持分変動損失の両建てで21億円の利益計上、 投資有価証券評価損は33億円に(対2Q末比+28億円)。</p>		



主要ブランドおよび製品の売上高

(億円)

	3Q累計	対前年同期 増減額	通期予想 (新)	修正額*
リポビタミンシリーズ	615	▲8	751	▲9
パブロンシリーズ	182	+21	248	+8
リアップシリーズ	90	+15	114	+5
胃腸薬シリーズ	35	+2	45	0
コーラックシリーズ	30	+3	38	0
リビタシリーズ	20	+2	27	0
クラリス	174	▲16	237	+2
ジェニナック	33	+8	37	+2
タゾシン+ゾシン	24	+13	39	+19

注: 数字は億円未満四捨五入

*従来予想(10月の第2四半期決算発表時点)に対する修正額

2008年度第3四半期：事業別概況



セルフメディケーション事業

- － 主カブランド
 - 景気減速の影響もあり、リポビタンシリーズは減収
 - リアップ、パブロンは引き続き順調
- － スイッチOTC・新規領域など新製品
 - ・ 腔カンジダ再発治療薬メディトリートを発売(10月1日)
 - 各製品が売り上げ増に寄与

医薬事業

- － 大正富山医薬品
 - 期初からの情報提供活動が奏功し、クラリスをはじめとする既存品は、計画を上回るペースで推移
 - 10月1日発売の注射用抗菌薬ゾシンは予想を上回る立ち上がり
 - 経口抗菌薬ジェニナック(07年10月発売)も順調な推移

2008年度第3四半期：市場動向



- ・ OTC医薬品市場：前年同期比1%減*1
 - 10～12月は景気や天候の影響もあり、ドリンク剤、ミニドリンク剤、風邪薬などふるわず
 - 伸びた薬効群は、漢方製剤、鼻炎治療薬、毛髪用剤など
 - 第1類医薬品・新規薬効群は引き続き寄与
- ・ 医療用医薬品市場：前年同期比2%増*1
 - 当社の主力市場である抗菌薬は市場全体で7%減（経口6%減、注射7%減）

Copyright 2009 IMSジャパン, JPM,
無断転載禁止,

*1 増減率は第3四半期累計期間

2008年度：連結通期業績



(億円)

	新予想	対前年増減		従来*2 予想	修正額
売上高	2,550	+53	+2%	2,520	+30
SMG*1	1,613	+86	+6%	1,611	+2
医薬事業	937	▲33	▲3%	909	+28
営業利益	365	▲5	▲1%	355	+10
経常利益	375	▲44	▲10%	390	▲15
当期純利益	65	▲185	▲74%	105	▲40
EPS(円)	15.9			22.2	▲6
(参考)					
大正富山 売上高	805	▲16	▲2%	770	+35

注：数字は億円未満四捨五入

*1 SMG：セルフメディケーション事業

*2 従来予想は10月の第2四半期決算発表時点のもの



2008年度通期予想：売上高・利益の増減要因

(増減は前年比)

<p>売上高 (+53億円) 従来予想を 30億円引き上げ</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+86億円) OTC薬等 +25億円(大正) ビオフェルミン +53億円 特保等 +3億円 その他 +5億円</p>	<p>医薬事業(▲33億円) 大正富山医薬品 ▲16億円 ビオフェルミン +30億円 ロイヤルティ ▲25億円 その他 ▲23億円</p>
<p>営業利益 (▲5億円) 従来予想を 10億円引き上げ</p>	<p>売上総利益 52億円増 <販管費 57億円増> (ビオフェルミン分41億円を含む) 研究開発費 +27億円 (ビオフェルミン 3億円) 広告宣伝費 +30億円 (ビオフェルミン 25億円) 販促費 ▲6億円 (ビオフェルミン 3億円) 人件費 +9億円 (ビオフェルミン 6億円)</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は50億円の損失を予定 特別損益: 第3四半期までに計上されたものを織り込む</p>		



第4四半期の取り組み

- ・ セルフメディケーション事業、医薬事業ともに従来の方針に変更ない
 - セルフメディケーション事業
 - ・ 新販売制度の施行(09年6月)に向けて
 - 新販売制度への準備・対応
 - 新規薬効・新規カテゴリー等に対する取り組み
 - ・ ブランドならびに新製品育成への取り組み
 - 医薬事業
 - ・ 引き続き、重点領域を強化
 - ゾシン:市場での早期定着、病院販路の強化につなげる
 - ジェニナック:2年目は積極的な情報提供活動
 - クラリスをはじめとする既存品の売り上げ確保
 - 研究開発:開発重点品のスピードアップ

セルフメディケーション事業：新製品



- ・ シガノンCQ、メディリート(腔カンジダ再発治療薬、抗真菌剤)などの新製品を育成中
- ・ 将来に向けて、導入活動にも積極的に取り組む

赤文字: 発売済みの製品

<p>＜第1四半期＞</p> <p>カフェイン180(食品)</p> <p>漢方シリーズ(テスト販売)</p> <p>など</p>	<p>＜第3四半期＞</p> <p>メディリート</p> <p>リポビタミンノンカフェ</p> <p>コレステアキトサン青汁</p> <p>グルコケア緑茶</p> <p>など</p>
<p>＜第2四半期＞</p> <p>シガノンCQ アルフェネオ</p> <p>パブロン50 パブロンうがい365</p> <p>密(伊勢丹共同開発)追加アイテム</p> <p>など</p>	<p>＜第4四半期＞</p> <p>外用剤</p> <p>内服剤</p> <p>など</p>

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



・ 新薬パイプライン：変更なし

(2009年1月29日現在)

	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
承認			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗生物質 非結核性抗酸菌症(肺感染症) <適応追加>	アボット ジャパン 共同	大正製薬
フェーズ3			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD ₃ 誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71

**CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



(2009年1月29日現在)

	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
NT-702 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
TT-063 (外用)	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
CT-064** (経口)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	気管支喘息	日産化学共同	日産化学
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 <適応追加>	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

**CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

研究開発費の動向

(含むセルフメディケーション事業)



- ・ 今期見通しは274億円(セルフメディケーションと医薬の内訳のみ変更)

(億円)

